

令和4年度 第2回学校協議会報告

日時：令和5年3月4日(土)14:00～15:30

会場：東大谷高等学校 多目的室1

1. 学校長挨拶

2. 協議会委員自己紹介（敬称略）

委員：東 京子氏（成美会役員） 丸岡俊介氏（近畿大学教職教育部教授）

中村俊一氏（立志館ゼミナール館長） 赤阪博之氏（堺市立三原台中学校校長）

橋本朋子氏（令和4年度PTA会長） 宮坂政宏氏（週刊教育プロ編集員）

事務局：長尾文孝（校長） 市居政彦（教頭） 東 明美（教務部長）

出水謙一郎（入試対策部長） 志藤真裕（情報部長） 吉永雅也（生活指導部長）

久富正彦（校務部長） 甘木智美（進路指導部長）

3. 議事

（1）議長選出 → 丸岡俊介氏（近畿大学教職教育部教授）

（2）現状報告

①学校全般について（校長より）

1. 在籍数

2. 高校入試結果

3. 2学期後半からの主な行事

②大阪大谷大学高大連携プログラム等（教務部長より）

③令和5年度高校入試結果（入試対策部長より）

④令和4年度3年生大学等入試結果（進路指導部長より）

（3）学校評価アンケート（教頭より）

（4）授業アンケート（教頭より）

（5）その他

・次回令和5年度第1回学校協議会 → 令和5年9月30日(土)14:00～、多目的教室1にて

◎協議会委員から

- ・東大谷ならではの部分をもっと全面に出してPRを（宗教科通信「聞思」など）
- ・授業アンケート 国語の評価が下がっていることについては、当校だけでなく最近の生徒の読解力が低下していることがあげられる。他教科にも言えることで全教科で読解力をあげる工夫が必要では。
- ・中学校でも読解力がついていないと感じる。いかにして授業改善をしていくか検討中である。
- ・子どもの実態を把握して、多様な生徒に合わせた指導の方法を考えていかないと難しい状況である。
- ・授業アンケートについてはコース別の結果も見たい。→（事務局）次回、できる範囲で用意する
- ・授業アンケート 文理での分析も効果があるのではないか。評価の低い項目については、ライブ配信授業でわかりにくかった部分もあるのではないか。
- ・大学入試結果については良く頑張っている。情報として、少子化の影響で関西大学・関西学院大学が

易化しているようだ。国公立にチャレンジできれば、結果を表に出せる

- ・学校の報告により、コロナ禍の中できるだけのことをしてこられた様子が窺える。
- ・「いい授業」とは生徒自ら進んで取り組める授業で、「探求ゼミナール」等の協働的な学習も必要。
- ・生徒指導について 文科省で昨年12月「生徒指導提要」の改定があり、校則の見直しや生徒評価、不登校の取扱い等についてすべての学校が考える時期に来ている。
- ・転退学者増については他校でも深刻化している。当校では現2年生に注意すべきで、生徒のモチベーションを上げる何か手を打たなければ大変なことになる。全国でも25万人が通信制に通学、大学では10人に1人が不登校になっている。
- ・学校評価アンケート「本校に入学してよかった」の割合が7割台、今までこんなことはなかった。何かしら手を打たないと（特に2年生）生徒募集にも影響が大きい。
- ・学校評価アンケートの満足度について結果は様々だが、私自身も娘も卒業生として在学中の教育には大変満足している。コロナの影響も評価を下げる一因になっている。
- ・同窓会実施に当たり初めて気づく事などもあり、違う角度から取捨選択が出来るようになった

【校長】

- ・生徒の満足度を上げるために「校則が厳しい」「行事が面白くない」という声を何とかしていきたい。
- ・中学生の時に、声を掛けられていない中間層が多く入学しており、きめ細かい声掛けをすることで生徒の自己肯定感が上がると考えている。